

## 平成28年度教育事業

### 「五感を使って体験しよう！ おやかかんかく発見隊」

1 趣旨

五感を活かした親子での体験活動を通して、豊かな情操を育むための体験活動に対する保護者の理解を深めることを目的とする。

2 主催

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

3 協力

アトリエ自遊楽校（宮城県仙台市）、(株) ニッコトラスト

4 後援

宮城県教育委員会、栗原市教育委員会

5 期日

平成29年 2月18日（土）～19日（日） 1泊2日

6 参加対象と人数

幼稚園・保育園年中・年長児を含む家族（30組程度）

7 参加状況：全日程参加30組90名

	宮城県		計
	男	女	
年中・年長児	17	13	30
保護者	19	25	44
小学生	2	1	3
乳幼児	9	4	13
計	47	43	90

※上記の参加者とは別に夜のコンサートへの参加2組9名あり

※全日程の小学生、乳幼児は年中、年長児の兄弟として参加

8 企画運営のポイント

本事業は五感を意識した直接体験を通して保護者の体験活動への理解を深めることを目的としており、3年目を迎える。

昨年度は、「自然体験」「絵本」という要素を取り入れて実施した。「絵本作りが少し長い」という昨年度の反省をもとに、今年度は2日目の体験活動を「造形活動」と「調理体験」の2つとすることで1コマを短くして体験活動を増やした。また、例年好評な「音楽」を使った表現活動も取り入れ、体験活動の充実を図った。昨年度から情報交換の場として、保護者向け「子育てカフェ」を実施しているが、今年度も実施し、子どもたちはボランティア企画参加と

した。

本事業のプログラム構成の主なポイントは次の通りである。

- ① 「五感を使って～」の事業名を意識し、「触覚」「嗅覚」「聴覚」「視覚」「味覚」を使っていることを強く感じられるプログラム構成にする。
- ② より多くの体験活動を参加者に十分体験してもらうために、2日目のプログラムを2つ実施する。
- ③ 子育てカフェを設け、ボランティアによる子どもプログラムを企画実施し、保護者の情報交換の場を作る

## 9 活動プログラム

### (1) 2月18日(土) 【国立花山青少年自然の家】

1日目	
午後	13:00 受付
	13:30 『はじまりの会』
	14:00 雪上活動(冒険広場) 『つめたいとあったかい!雪遊び、たき火、いのちのあたたかさ』
	16:30 入浴
	17:20 夕食
夜	18:30 表現活動(オリエンテーション室) 『見て、聞いて表現しよう!あきらちゃんコロッケくん遊び歌コンサート』 出演者:アトリエ自遊楽校 あきらちゃんコロッケくん
	20:20 保護者:ゆっくりタイム『子育てカフェ』(食堂) 幼児:ボランティア企画 『お兄さんお姉さんと遊ぼう探検ゲーム』(オリエンテーション室)
	21:30 就寝

### (2) 2月19日(日) 【国立花山青少年自然の家】

2日目	
午前	7:15 朝のつどい、健康観察
	8:30 朝食
	9:10 造形活動と調理(AB班入替) ①『粘土で作ろう、ランプシェード』(オリエンテーション室) 講師:花山青少年自然の家 企画指導専門職 奥山洋 A班 9:10~10:15 B班 10:30~11:35
	②『実験、発見、素材味』(食堂) 協力:ニッコックトラスト B班 9:10~10:15 A班 10:30~11:35
	11:50 昼食
午後	12:50 アンケート記入
	13:00 『おわりの会』

## 10 実施状況

〔2月18日（土）〕1日目

### ◇ 雪上活動『つめたいとあったかい！雪遊び、たき火、いのちのあたたかさ』

雪の中の活動で、より肌で感じる感覚を意識できるように、冷たさだけでなく、その対極になる温かさを感じるような場の設定にした。そこで、花山ならではの雪を使った自然体験活動の中で、寒さの中だから強く意識できる「火のぬくもり、動物を抱いたときの生き物のぬくもり」を感じられる場をつくった。

残念ながら雪不足のため、地面が見えるところもあったが、参加者は親子でそり、チューブ乗りを楽しんだ。また、5羽のうさぎをなでたり、抱いたりすることで生き物の命を感じることができた。さらに、たき火を囲みながらココアで一息入れることで火のありがたさを感じることもできた。他にも周辺地図を用意することで、活動を選びながら雪の中の自然体験を家族で楽しんでいた。



「そり滑りを楽しむ親子」



「チューブ滑りを楽しむ親子」



「うさぎにふれる子ども」



「たき火を囲む参加者」

### ◇ 表現活動『見て聞いて表現しよう！あきらちゃんコロケくん遊びうたコンサート』

メロディー、リズムに合わせて体を動かしながら、子どもだけでなく大人も音楽を楽しむことができた。普段人前に出ることが苦手な子どもも、楽しさのあまり前に出たという話もあった。出演者からのメッセージには子育てについて考えさせられることも多かった。子ども、保護者、スタッフ全員が楽しみ、学べた時間だった。



「前に出て手遊びをする子どもたち」



「前に出て踊るお父さんたち」



「積極的に参加する子どもたち」



「出演者、参加者みんなで記念撮影」

- ◇ 保護者：ゆっくりタイム『子育てカフェ』  
幼児：ボランティア企画『お兄さんお姉さんと遊ぼう』

昨年度に引き続き保護者の情報交換の場を設けた。初対面同士が多いため、サイコロの出た目の話題について話し合う方法を取り入れた。お互いに打ち解けていき、子育てについて話が弾んだ。子育てカフェの間、子どもたちはボランティアが企画した探検ゲームに取り組んだ。また、絵本、お絵描きなども用意し、希望に合わせて時間を過ごした。



「お母さん同士のテーブル」



「お父さん同士のテーブル」



ボランティア企画「探検ゲーム」①



ボランティア企画「探検ゲーム」②

[2月19日(日)] 2日目

◇ 造形活動『粘土で作ろう、ランプシェード』

調理活動『実験、発見、素材味』

造形活動では、付ける削るという可塑性のある粘土を素材として、触覚を感じながら親子で一つの作品を作った。親子で土の感触を味わいながら、工夫を凝らしたランプシェードを作った。作った作品には火を灯し、最後に全員で鑑賞した。

調理活動では、初めにスープに煮込まれた5種類の野菜が何か考えた。その後、野菜の切り方、組み合わせなどを考えて、素材の味を活かしたスープづくりを行い家族で味わった。



「親子で一つの作品作り」



「出来上がった作品」



「スープの素材当てにチャレンジ」



「スープに入れる素材を切る子ども」

## 11 成果と課題

### (1) アンケート結果

満足：76.7%      やや満足：23.3%      やや不満：0%      不満：0%

### (2) 参加者の声

- ・安全な場所で思う存分雪遊びができて、友達もいて子どもも満足した模様。親も安心でした。同年代の子どもを持つお父さんお母さんと話ができ、参考になりました。
- ・初めてそり滑りをしました。思っていた以上に大喜びで連れてきてよかったと思います。普段なかなか体験できない内容で、たいへん楽しんでいる様子が見られて良かったです。
- ・雪上活動では、雪遊びだけでなく動物などのふれあいなどもあり興味を持ち続けることができた。コンサートは参加型なのがよかった。粘土は家族で何か作るのが楽しかった。子どもが楽しんでいて表情がとても良かったです。子どもが好きな活動でした。
- ・子どもがのびのびと動くことができてよかった。天気も良かったので、外での活動もしやすかった。できればもう少し雪があるとよかった。
- ・子育てカフェでは、お互いの子どもとの接し方を聞いたことがとても参考になりました。調理では、友達と共同作業できる楽しさがいつもすることのない調理を面白くさせていたと思います。
- ・コンサートはユーモアがありながらチクツとする言葉（お話）があり、楽しく参加しました。子どもがあんなに楽しく踊っている姿を見るのが初めてでした。
- ・皆の前に出ることや、友達をつくるのが苦手な娘だったので、そのどちらかのきっかけになる内容でありがたかったです。
- ・たくさんの雪の中で遊ぶことがなかなかできないのでよかった。コンサートは子どもがはずかしがりやで表現活動に慣れさせるきっかけになった。調理は食べるのが好きで、料理に興味があるので、包丁を握らせる機会があってよかった。
- ・夜の子どもの探検が楽しかったそうです。ボランティアのお姉さんともっと遊びたかったそうです。
- ・自然についての感受性を高めるとともに知らない子どもたちと打ち解けて友達になれる積極性をつけさせたいと思っています。

### (3) 成果

- ・多くの参加者の方から参加してよかったという感想をもらうことができた。盛りだくさんの内容だったが、たくさんのプログラムを体験してもらい、体験活動について考える機会を提供できた。
- ・「そり、チューブ」「動物」「たき火」「ハイキング」など、雪中プログラムを予め増やしておいたことで、雪不足であっても参加者が様々な雪上体験を楽しむことができた。
- ・体験活動の指導では食堂からの協力、専門職の得意分野の活用など、自然の家にある人材を活かしてプログラムを実施することができた。

### (4) 課題

- ・他の事業でも同じなのだが、近年の雪不足のため、たくさんの雪を期待して集まる参加者の期待に応えられない状況になっている。
- ・年々参加家族が増えており、さまざまな状況によって指示が行きわたらないこともあった。特に集合時間、部屋の清掃など徹底するのが難しいところがある。また、他の家族と相部屋になる部屋割りに理解を得ることが必要である。